

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

93

2020. 10. 30

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の兵庫県内の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ 1
2. 兵庫JCC宣言 2
3. 協同組合間協同による一次産業振興、
地域支援の取り組み 3
4. 都道府県協同組合連携組織等全国交流会議 4

Contents

5. 今協同組合では一各協同組合からの報告一
JA（農協）／JForest（森林組合） 6
生協／JF（漁協） 7
6. 協同組合運動に生きる
「協同組合の一員として」
兵庫県漁業協同組合連合会 指導部
課長代理 西上 幸作 8

● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

兵庫JCCトップ対談を開催



生協

8月6日、兵庫県生協連創立70周年記念企画として、兵庫県生協連・JA兵庫中央会・JF兵庫漁連・兵庫県森林組合連合会の会長による対談が行われ、協同組合間連携について話し合われました。（対談内容は70周年記念誌に掲載予定）

ITセンサーによる水管理の省力化



JA（農協）

JAグループは、ロボット技術やICT等の先端技術を活用したスマート農業に取り組んでいます。JAみのみでは、加東市内25カ所の圃場にITセンサーを設置しました。スマートフォン等で水位データを確認し、見回り等の時間を削減することができます。

但馬 沖合漁業解禁



JF（漁協）

9月1日、日本海の主幹漁業である沖合底びき網漁業、へにすわいがかご漁業が解禁となり、JF但馬・JF浜坂の各漁港は活気に包まれました。沖合漁業は来年の5月末まで行われますが、無事故・豊漁を期待します。

令和2年度通常総会を開催



JForest（森林組合）

8月31日に兵庫県土地改良会館において兵庫県森林組合連合会令和2年度通常総会を開催しました。今回は、コロナウイルス感染症対策として間隔をあけ、最低限の人数で開催しました。

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(0794) 87-0062
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 381-5425

第98回国際協同組合デー・兵庫JCC宣言

近年の国際社会は、民族紛争や国家間の経済摩擦などにより、世界的な調和が乱れるとともに、ナショナリズムや自国の利益を優先する風潮が強まっています。また、世界的な気温の上昇や干ばつ、台風などの自然災害に加え、新たな脅威である新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により経済活動や日々の生活が大きく抑制され、世界中の多くの人々が、暮らしに不安を感じる事となりました。

私たち協同組合は、組合員ひとりひとりが「自ら行動し、助け合うことで社会を変えていく」という理念のもと、相互に助け合い、よりよい暮らしを実現するための組織です。このような状況である今こそ、地域社会や経済、安全安心な食料の供給、環境の保全などの分野において、新たな価値観のもと、各団体が果たすべき役割を見つめ直し、SDGs に掲げる持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための活動を拡げていくことが更に求められます。

兵庫では、生協、農協、漁協、森林組合の4つの協同組合の連携を30年以上前から全国に先駆けて行っており、近年では「虹の仲間づくりカレッジ」を通じて、次世代を担う若手職員間の交流と学びを目的とした取り組みを積極的に実践しています。歴史ある本県の協同組合の連携を軸に、私たちはアフターコロナの新たな日常生活や目まぐるしく変化する社会に、「協同の力」で対応し道を切り拓くため、あらためて人を基盤にした助け合いの精神と仲間のつながりを守り育てて行かなければなりません。

兵庫県内の協同組合に集う私たちは、「協同の力で未来を拓く」のテーマのもと、協同組合の可能性について認識を深めることで、次の世代が、協同組合間のさらなる連携を進めるとともに、心をつなげて、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。

2020年7月3日

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第98回国際協同組合デー・兵庫記念大会は中止となり、兵庫JCC宣言は第37回兵庫JCC委員会で書面により決議されました。

兵庫 JCC = 兵庫県協同組合連絡協議会 = とは Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、兵庫県内の生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の相互交流と連携強化を目的に、1984年7月の第62回国際協同組合デーを機に設立されました。

「協同組合間協同による一次産業振興、地域支援の取組に向けた情報収集・現状調査チーム」

第2回会議・現地調査を実施

兵庫 JCC では、各協同組合の共通の願いである一次産業振興・地域支援を進めるため、協同組合が連携して、兵庫県内の産地の現状について情報収集や現状調査を行う調査チームを 2019 年度に立ち上げました。

8 月 7 日に、淡路島で第 2 回会議と現地調査を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの実施となりました。

第 2 回会議では、コロナ禍の中での変化や新たな取り組みなどについて、各団体からの情報共有を行いました。

兵庫県森林組合連合会からは県産材を使った飛沫防止ボードを新たに開発し需要が高まっていること等について、JF 兵庫漁連からは外食の落ち込みなどに伴い、生魚の需要が落ち込み、冷凍保存されて加工品に回ることが増えていること、JA 兵庫中央会からは、花木、畜産、酒米が特にダメージを受けていることについて、JA 全農兵庫からは日本酒の需要の低迷について、個人での消費だけでは追い付かず、需要促進に向けて若い世代への働きかけなどを行う必要があり、各協同組合と連携して進めたいという発信がありました。

コロナ禍で、国内での生産力を高めていくことが重要であるという意識も世間で広まっていることも感じられ、地域の生産を考えるうえでの追い風になっていくのではないかという意見も出されていました。

続いて、第 2 回現地調査として、あわじ里山プロジェクトのメンバーである高木愛季さんら 4 名の方にご参加いただきました。

淡路島の放置竹林は、シカやイノシシの住処になり獣害の温床となることや、他の草木が育たず生態系に悪影響を及ぼしたり、大雨の時には地滑りによる災害にもつながる問題となっています。高木さんからは、放置竹林の幼竹 (1 m 50cm 程度) を原料とする「国産メンマ」の生産を通して、この問題を解決しようとする取り組みについて報告いただきました。

地元企業、大学や行政とも連携し、地域の方の仕事づくりにもつながる取り組みで、調査チームのメンバーも関心を持って聞いていました。

第 2 回会議・現地調査をふまえ、引き続き、協同組合が連携してできることについて調査チームメンバーを中心に検討していく予定です。



第 2 回会議 (オンライン会議) の様子

全国の協同組合間の連携事例を学ぶ ～都道府県協同組合連携組織等全国交流会議～

JCA（日本協同組合連携機構）は、7月2日、都道府県協同組合連携組織 全国交流会議を開きました。新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの会議となりました。41の都道府県の連携組織、15の全国組織から約170人が参加しました。

JCAの馬場利彦代表理事専務（当時。現JA全中専務理事）が挨拶するとともに、新型コロナウイルスに対する協同組合の取り組みなどについて、報告しました。

次に、藤井晶啓常務理事がJCAの2030年ビジョンおよび中期計画について説明しました。種々の協同組合の現状と課題や共通的な課題をまとめた「協同組合白書」を作成予定であること等を報告しました。

また、横溝大介連携推進マネジャーが、2020年都道府県の協同組合連携組織の実態調査アンケートの結果を報告しました。

続いて、県域から7つの協同組合連携事例について、前田健喜協同組合連携部長が各事例の概要を説明した後、各県の事務局から取り組みについて説明がありました。

最後に青竹豊常務理事がコロナ禍の今こそ協同組合の連携を深め、拡大していきたいと閉会の挨拶をしました。



開会の挨拶をする馬場専務

7つの協同組合連携事例

① 北海道 新たな協同組合連携組織「協同組合ネット北海道」

2020年6月に発足。「ゆるやか、あいのり、やってみる」のキーワードを掲げ、年度別の具体的なテーマとチームを設定する等、より実践的な組織運営を目指しています。

② 大阪府

新たな協同組合連携組織「大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会」

2020年7月に発足。構成団体にNPOを含んでいることが特徴で、各協同組合と非営利セクターが相互に連携して、サポートが必要な子どもに対する食材提供等の支援や災害に対する支援をするなど、地域の共通課題の解決を目指します。

③ 長野県 「信州農業再生復興ボランティアプロジェクト」

長野県では、平時より、協同組合、行政、社会福祉協議会、NPO等が交流を深めており、2019年の台風被害に対して、農業再生に向けたプロジェクトが実施され、延べ8524人のボランティアが参加しました。



④ 香川県 生協とJAの店舗併設によるシナジー効果の発揮

コープかがわとJA香川県は、生協の店舗と農産物直売所を併設し、相乗効果で集客向上を目指しています。



⑤ 広島県 協同労働で地域の課題を解決「アグリアシストとも」

広島市は協同労働(※)の仕組みを利用した事業の立ち上げを支援しています。「アグリアシストとも」はこの仕組みを活用して立ち上げられた団体の1つで、JAの総代や理事が中心となり、農地の草刈りや農機具の整備などの農業等の困りごとを解決することを目的に活動しています。

※協同労働とは地域住民自らが出資して、対等な立場で意見を出し合い、地域に役立つ仕事や活動を行う仕組みです

⑥ 茨城県 大学生へ食料を無償配布「協同組合ネットいばらき①」

協同組合ネットいばらきは、フードバンクや地元企業などと協力し、コロナ禍で困窮している1人暮らしの大学生・専門学校生へ食料の無償配布を行いました。



⑦ 茨城県 大学寄付講座の実施「協同組合ネットいばらき②」

国際協同組合年の取り組みの一環として、茨城大学人文学部に寄付講座を開設し、協同組合について広く知ってもらう機会を作っています。この講座を受講したことがきっかけになり、JAやコープ等に就職した学生もいます。

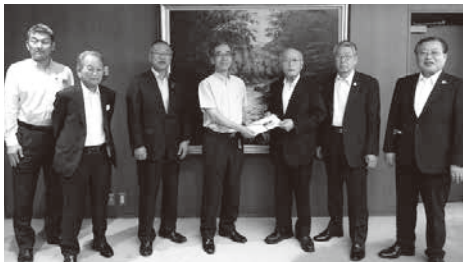
一般社団法人 日本協同組合連携機構 (JCA) とは

一般社団法人 日本協同組合連携機構 (JCA) は、平成30年4月1日、日本の協同組合17組織が集う「日本協同組合連絡協議会 (JJC)」が一般社団法人JC総研を核として再編して誕生した組織です。協同組合間連携、政策提言・広報、教育・研究の機能を備え、協同組合が「持続可能な地域のよりよいくらし・仕事づくり」に貢献することを目的としています。

今 協同組合では —各協同組合からの報告—

JA(農協)から

JA グループ兵庫が医療従事者を支援



JAグループ兵庫から目録を贈呈しました

医療従事者への支援に役立たせていただく」と話しました。

また、JA 共済連兵庫は6月22日、外来や見舞いなどで病院を訪問する人から発熱者を検知できるサーモグラフィーカメラ8台、約1,000万円相当を兵庫県に寄贈しました。今回の寄贈は新型コロナウイルスの感染防止だけでなく、医療従事者の負担を少しでも軽減することを目的に行われました。

寄贈した8台のカメラは県内の8つの病院に設置され、病院の入口付近などで活用されます。

JA 共済連兵庫の市村幸太郎会長(当時)は「新型コロナウイルス感染症が非常に大きな不安感を与える中、少しでも医療現場や地域の役に立ちたいという思いから寄贈した。機器の活用を通じて病院関係者の負担軽減と地域の方や利用者の安心につなげたい」と話しました。

JAグループ兵庫は6月8日、兵庫県が設立した「ひょうご新型コロナウイルス対策支援基金」へ1,000万円を寄付しました。同基金は医療の現場で新型コロナウイルスと闘っている医療従事者の勤務環境を改善するなど、医療従事者をバックアップすることを目的に設立された基金です。

贈呈式では、JA 兵庫中央会の石田正代表理事長(当時)が「医療従事者に感謝している。JAグループとして支援させていただく」と述べ、目録を受けた。県の金澤和夫副知事は「JAグループの支援に感謝している。医療



JA 共済連兵庫からサーモグラフィーカメラ等を贈呈しました

JForest(森林組合)から

木製品カタログを作成

兵庫県森林組合連合会では、これまでに多くの木製品を販売してきました。

しかし、どのような商品を販売しているか等、余り情報を発信していませんでした。そのため、木製品の購入を検討されている方は、その都度、県森連に問い合わせをする必要がありました。

そこでこの度、県森連が販売してきた木製品のカタログを作成し、外部への情報発信を始めました。カタログに掲載されている商品は兵庫県産材を使用した木製品となっています。また、ひのきのボールペンや名札などの小物・文具製品から、テーブルや看板などの大型製品、屋外で使用するベンチやプランターなど、多種多様な商品となっています。そして、掲載されている多くの商品がオーダーメイドの商品になっており、様々な条件に合わせた商品の提供が可能です。

最近では、新型コロナウイルス対策として、飛沫防止ボードの取り扱いを始めました。様々な場所に設置できるよう数種類のボードを用意しています。

木製品カタログを作成することで、多くの方に木製品の魅力を知っていただけるよう努めていきたいと考えています。また、兵庫県森林組合連合会のホームページ(<http://www.hyogomori.jp/>)にもカタログを掲載していますので、ぜひご覧ください。



生協から

「ひょうごまるごと健康チャレンジ 2020」はじまりました！

2018年から兵庫県生協連と県内医療生協、そしてコープこうべの主催で取り組んでいる「ひょうごまるごと健康チャレンジ」。今年も9月からはじまりました。より多くの方が参加できるようチャレンジ項目を増やし、パワーアップしています。チャレンジシートを手に入れて、気軽に健康習慣づくりをはじめませんか。ご参加お待ちしております。

【参加方法】

- ①チャレンジシートを手に入れる。
※チャレンジシートは各医療生協の窓口やコープこうべ店舗の共済カウンターで配布しています。
- ②シートにあるコースのメニューを参考にチャレンジ項目を決める。
- ③マイチャレンジカレンダーにチャレンジ項目を書き込み、取り組んだ日付を記入する。
- ④30回チャレンジできたらシートの結果報告はがきを送る。

【参加期間】 2021年1月31日まで



チャレンジシート



チャレンジ項目

JF(漁協)から

産直ネットショップ JF おさかなマルシェ 「ギョギョいち」

全国の JF グループ協力の下、JF 全漁連が運営する全国の浜と消費者を繋ぐ産地直送ネットショップ「JF おさかなマルシェ ギョギョいち」は、漁業の成長産業化に向けたバリューチェーンの改善を目指すため、浜の生産者から消費者に、直接旬のおいしい魚や加工品の他、浜の情報を届けることを目的とし運営されています。

「ギョギョいち」は地元漁師が自信を持って勧める魚である「プライドフィッシュ」や全国各地の漁師や漁連・漁協が季節ごとにオススメする旬の魚や漁師飯、地魚を使った加工品が販売され、兵庫県は明石ダコ・生シラスなどがラインナップされています。現在期間限定で送料無料キャンペーンの商品もありますので、ぜひご利用ください。

また、サイト内には商品の魅力や水揚げ風景、生産者の思いを伝える動画もありますので、ぜひご覧ください。



JFおさかなマルシェ
ギョギョいち

ギョギョいち
公式ホームページアドレス <https://jf-gyogyo.jp/>



明石だこ三昧



生シラス

協同組合運動 に生きる

「協同組合の一員として」



兵庫県漁業協同組合連合会 指導部 課長代理 **西上 幸作**

兵庫県漁業協同組合連合会（JF 兵庫漁連）は、兵庫県下の 37 漁協を会員とし、漁協が漁業者のために行う事業をバックアップすることで、漁協とともに約 4,200 人の漁業者の営漁活動を支える事業を行っています。私は阪神淡路大震災の翌年の 1996 年に入会し 25 年目となります。入会後は「のり共販部」で 3 年、「総務部電算課」で 10 年、「但馬支所」で 8 年、「一般財団法人兵庫県水産振興基金（出向）」の 3 年を経て、この 4 月より「指導部」にて組織活動や補助事業などを担当し、そのなかの業務のひとつに兵庫 JCC 事務局があります。私の入会後の業務を通じて、本会事業の一部を紹介させていただきます。

1 つ目の「のり共販部」では、夏場は冬の高苔生産に備えて海苔網のアク抜き、秋は水車採苗で海苔網への種付け作業、冬場の海苔漁期では県内で生産された海苔を集荷し、海苔見本を入札商社へ送付するなど入札会の運営業務を行いました。入会まで兵庫県が全国有数の海苔生産県であることを知らず、本県産の焼き海苔を食べ、今までの海苔との違いに驚いたことを覚えています。

2 つ目の「総務部電算課」では、パソコンが一気に普及した時期で windows98 全盛期。本会職員一人に 1 台パソコンが支給されましたが、操作も不慣れなため各事業所でトラブルが発生し、その対応に忙しかったと記憶しております。また、漁協にもパソコンが普及し、漁協職員のパソコンスキルアップのためエクセル講習会講師を務め、本会職員・漁協職員が働きやすい環境を整える業務を行いました。

3 つ目の「但馬支所」では、指導担当兼流通加工担当となり、これまでの事務系業務から漁業者と接する業務となり緊張したことが思い出されますが、業務を通じて触れ合う漁業者は優しい方ばか

りでとても可愛がっていただきました。漁業が資源量の悪化や魚価安に加え、漁業従事者の高齢化や後継者育成問題など様々な課題を抱えているなか、漁業者は水産業を消費者や次世代の人たちにとって魅力あるものにしたとの想いを抱えていると感じました。また、但馬支所のある香美町は私の出身地で漁業が地域経済を支える大きな基幹産業ですが、そこで漁業者・漁協職員・水産加工業者・宿泊業者が中心となり立ち上がった魚食普及推進団体「香美町とと活隊」へ業務上のご縁から入隊し、新たな刺激も受けました。

4 つ目の「一般財団法人兵庫県水産振興基金」では、漁業情報誌拓水の編集、若手漁業者や漁協・系統団体職員を対象とする漁村地域の指導者にふさわしい人材を育成する教育機関「大輪田塾」の運営業務を担当し、塾 OB をはじめ県下全域の漁業者や漁業系統団体職員、行政の方々と接点を持つことができました。また、2017 年度の虹の仲間カレッジにも参加し、グループワークやフィールドワークを通じて、各団体の職員と交流を深めながら、他の協同組合の事業や社会的役割について学ぶことができました。

農林漁業などの協同組合は、第一次産業のイメージが強くあると思いますが、漁獲物や生産物の共同販売など様々な事業や活動を通じて、漁獲・生産物の加工を行う第二次産業、加工品の販売を行う第三次産業までを資本の力ではなく、人と人とのつながりにより支える組織です。今は SNS など人とつながる新しい方法ができ、協同組合活動も変化が生じてくるかもしれませんが、これまでの経験や人脈、協同組合間連携の可能性を最大限に活用し、協同組合の一員として漁業の振興や地域社会の発展に微力ではありますが尽力したいと思います。